

あいあい通信



AIAI-TSUSHIN

2013.9 Vol. 54

◆院長の一言メッセージ

「生と死」について考えてみる

院長 松田 保秀

今年はいつ夏になったのかと思いついてみると、7月初旬の高温気象がきっかけだった。随分長い夏を過ごしたことになる。それというのも7月の参議院議員選挙で熱気が噴出したから、余計に夏がだらだらと続いた感じがする。おまけにお盆前には気温が過去最高の摂氏41度と、想像を絶する数値を記録したものだから、毎日の挨拶が「おはよう」の前に「暑いね!」で始まる始末だ。従って涼を求めるのは、高山への登山、北海道旅行、海水浴となるが、熱中症を恐れて冷房環境下の自宅での隠遁も流行らしい。

それにしてもこの頃、震災、豪雨災害、事故、殺人など、いとも簡単に人が亡くなることが多い。そこで、お盆は過ぎてしまったが、人間の「生と死」について私の思いを巡らせてみた。

仏教徒にとっては当たり前のことだろうが、「仏教」とは仏になるための教えであり、「浄土」とは仏になる修行をするところ、「死ぬ意義」とはお浄土へ行くことといえる。しかし、浄土での修行は相当忙しいので、疲れた人生の休憩所にはならないようだ。従って死に急ぐ必要は全くないと思われる。否応なしにこの世と決別せざるを得なかった人にとっては痛恨の極みであろうが、人間の寿命は精々80年で遅かれ早かれ命は尽きるものだ。さて、私自身の「生と死」に対する考え方は、この無限の広さを持つ宇宙において、たまたま地球

採血室前掲示板



検査部

採血室前にある掲示板には、検査や病気、健康に関する気になる話題を掲示しています。1~2ヶ月毎に更新し、常に新しい情報を提供出来るよう心掛けています。みなさまの健康な毎日の一助となれば光栄です。

今回のテーマ

・動脈硬化について

動脈硬化症は最近テレビの健康番組でも取り上げられています。動脈硬化の病態や指標となる検査値についてまとめました。

・カンピロバクター腸炎について

5~10月に多くみられ、カンピロバクターを原因菌とする食中毒は年々増加傾向にあります。予防策や注意点も載っていますので、是非ご一読ください。

INFORMATION

医師紹介

佐野真規 医師



- 1 出身地 2 血液型・星座
- 3 医師になった動機など 4 趣味・ストレス解消法
- 5 浜松・松田病院の印象 6 読者へのメッセージ

1 静岡市
2 A型・てんびん座
3 当初は「手に職を…」と考えていましたが、現在では外科医が「天職」と思っています。
浜松医大を卒業後、足利日赤、静岡日赤、静岡県立総合病院にて、消化器外科医として勤務し、現在は浜松医大血管外科に所属しています。
4 「墓マイラー」です。詳しくは直接聞いて下さい。
5 「病院銀座」と揶揄される浜松市において、生き残れる病院は限られてきます。周辺の病院で行われておらず、当院で完結できる治療を積極的に取り入れることが、生き残りへのひとつの道と考えます。まずは下肢静脈瘤の日帰り手術を始めました。現在は漸く軌道に乗り、毎週手術の予約が入っています。今後は二次性リンパ浮腫への複合的理学療法の導入を考えています。
6 今後も多くの方々に協力をお願いすると思っています。よろしくお願いします。

※佐野医師は、毎週木曜日の血管外来、血管ドックを担当しております(予約制です)。

女性専門外来より

平成25年9月より、これまでの月曜日の午後に加え、火曜日の午後にも診療を拡大します。火曜日は女性の医師が担当いたします。痔でお悩みの女性の方、肛門科に抵抗感のある方など、是非ご利用ください。当院の女性専門外来は、待合室、診察室を他の患者さんと別の場所で行なっています。なお、月曜日は男性医師(院長)となります。

診療日時: 月曜日 午後2時~3時
火曜日 午後2時~4時

診療対象: 女性で初めて肛門科を受診される患者さん。

※予約診療です。お電話にてご予約下さい。

ご予約・お問い合わせ) 053・448・5121(代)



月曜日担当: 院長 松田保秀

当院の女性外来に念願の女性医師を迎えることになりました。女性同士でないと相談しにくい内容もあることでしょうか、火曜日でも是非ご利用ください。



火曜日担当: 相川佳子医師

この度、女性外来を担当させていただくことになりました。不慣れな点も多く、皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、女性である利点を生かして診療を行なっていけたらと思います。是非、気軽にいらしてください。

診療のご案内

● 患者さんへお願い ● 月1回、必ず保険証の提示をお願いいたします。

■ご来院の際には事前に予約をお取り下さい

◇ご予約はお電話でも承ります。◇受診当日のご予約も可能な限り承ります。
外来診療は予約の方を優先させていただきます。予約のない方はお待ちいただく時間が長くなることをご承知下さい。※急患の方はこの限りではありません。

	受付時間	月	火	水	木	金	土
胃腸・肛門外科	8:30~11:30	●	●	●	●	●	
	8:30~12:00						●
	14:00~16:00	●	●	●	●	●	

その他の診療科	受付時間	月	火	水	木	金	土
IBD(炎症性腸疾患)外来	8:30~11:30				●		●
ヘルニア外来			●				●
排便機能外来							●
内科相談				●			
泌尿器科相談			●	●			
ストーマ外来			●	●		●	
女性専門外来	14:00~15:00	●					
	14:00~16:00		●				
血管外来	14:00~15:30				●		



特定医療法人
社団 松愛会

松田病院

〒432-8061 浜松市西区入野町753番地
TEL.053-448-5121(代) FAX.053-448-9753

JR=浜松駅下車 タクシーで10分 高塚駅下車 タクシーで5分
バス=浜松駅バスターミナル5番ポール(宇布見、山崎行)乗車
東彦尾または西郵便局下車 徒歩5分 駐車場 180台

E-mail cra@matsuda-hp.or.jp
ホームページ https://www.matsuda-hp.or.jp
(発行/松田病院広報委員会)

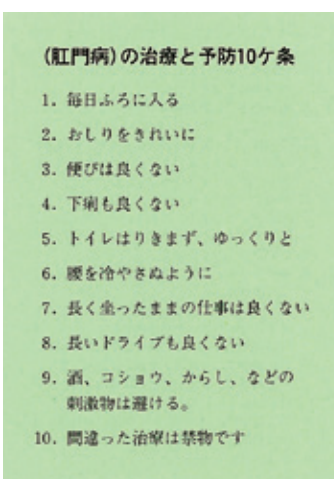
肛門病の治療と予防10ヶ条

その3

皆さんこんにちは。今年の夏は猛暑の上、集中豪雨や竜巻など大変でしたね。体調を崩した方が多かったと思います。涼しくなつてやれやれですが、ここで油断をしないようにしましょう。体にやさしい秋にこそ、食事と運動で体力を回復するべく努力し、冬に備えましょう。今回は『肛門病の治療と予防10ヶ条』第3弾です。

5「トイレはりきまず、ゆっくりと

トイレに座ってリラックスしたら何も考えないうちにスルスルッと便が出る、これが理想の排便です。草をはみながらボトボトと便を出す動物園の草食動物は、まったくりきんでいる様子があ



予防10ヶ条は診察室にご用意しています

りません。人間は所構わず排便することが許されませんけれども、トイレの中であんな感じで排便できるというですね。バランスのとれた栄養を適量、規則正しい時間によくかんで食べ、毎日適度の運動をしてストレスを減らす工夫をしましょう。

硬い便をりきんで便を出すと、前回お話ししたように「裂肛（きれ痔）」をおこします。「裂肛」を繰り返すと、「皮垂」や「肛門ポリープ」が大きくなり、「肛門狭窄」となつてさらに便が出にくくなります。また「痔核（いぼ痔）」が大きくなつて飛び出して「脱肛」し、直腸そのものが飛び出す「直腸脱」にもなります。

やわらかい便でもポーンと勢いよく出してしまうと、便の中の菌が皮膚や粘膜を通り越して入り込み、膿がたまる病氣「肛門周囲膿瘍」をおこします。やわらかい便なのにりきまないと出ない方は、腸の蠕動運動が弱つているのです。ストレスで交感神経優位になつてい

る可能性が高いので、食生活管理の上、運動とリラクゼーションを心がけましょう。どうしても出ない場合は薬や浣腸の助けを借りましょう。

排便時にりきみすぎると、血圧が上がつて脳の血管が切れることがあります。また圧力がかかつて腸に穴が開き、腹膜炎を起こして命にかかわる事態にもなりかねません。便が出にくい時は無理せず病院を受診してください。

トイレは家の中で最も大事にしたい場所です。いつでも入りやすいよう、清潔を保ちましょう。暑すぎたり寒すぎたりしないようにしましょう。トイレで本や新聞を読む習慣の方がいらつしやいます。が、好ましくありません。ご自分のおしりのためだけでなく、ご家族のためにも長居は禁物です。

排便のときあまりりきむと、肛門にうっ血・出血をきたします。このほか重いものを持ち上げるとかゴルフなども急激に肛門に負担がかかるのでよくありません。

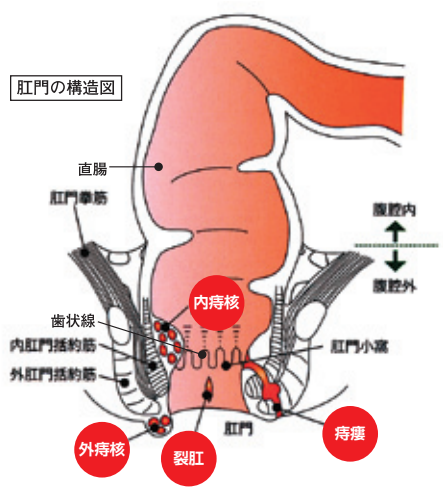


副院長
川上 和彦
Kazubiko Kawakami

6「腰を冷やさぬように

体を温めることの意味は第1回目にお話ししましたが、特に腰から足元を冷やすことがよくありません。寒いところでの長時間の作業、あるいは釣りでおしりを悪くする方が多いです。防寒具に気を使い、カイロなどの使用を心がけましょう。

腰を冷やすと肛門の血行が悪くなるのでよくありません。



ピロリ菌検査を受ける方が増えています

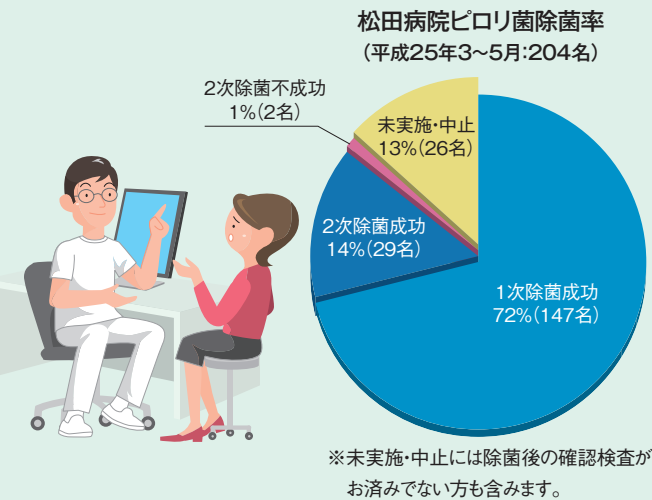
検診部長 木村浩三 医師

人の胃の中に住む細菌ヘリコバクター・ピロリ菌（以下、ピロリ菌）は、「胃がん」や「胃潰瘍」「十二指腸潰瘍」の発症に深く関与しており、日本人の感染は約2人に1人、特に40歳以上では70%以上の方が感染していると言われています。

前回お伝えしたように、ピロリ菌の検査と治療（除菌）は、これまで「胃潰瘍」や「十二指腸潰瘍」などの限られた疾患だけが健康保険の対象となつていましたが、今年の2月下旬、「慢性胃炎」にも適用が拡大されました。これにより、検査・治療を受けられる方が急増しました。当院では、平成25年3月から8月の6ヶ月間で延べ1351名の患者さんが検査を行い、そのうち539名が除菌治療を行っています。

80%、2次除菌を合わせると約90%と言われています。当院での実績は別表をご覧ください。

健康保険でピロリ菌の有無の検査や除菌治療を受けるには、**胃内視鏡検査での『慢性胃炎』などの診断が必要**です。そのうえでピロリ菌感染の有無を調べる検査を行い、陽性の場合には除菌治療を行います。なお、特に症状がない場合でも、当院では「ピロリ菌検査」を開設していますので、保険外診療（自費）として検査・除菌を受けていただくこともできます。気になる方はお気軽にご相談ください。



「治験・臨床試験への取り組み」②

治験事務局 平田哲也

今回は治験について少し詳しくお話しします。

一般に薬は、化学合成や植物などから発見された物質の中から、病気に効果があり、人に使用しても安全と予測されるものが候補として選ばれます。

「くすりの候補」の開発の最終段階では、人での効果と安全性を調べる試験が必要です。この人での試験を「臨床試験」といい、国の承認を得るために臨床試験を行うことを特に「治験」と呼んでいます。

治験は、患者さんの人権および安全性を確保するために定められた「ヘルシンキ宣言」ならびに「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」に基づいて行われます。

また、どのような病院でも行えるわけではなく、法律に基づいた要件を満たす施設だけが治験実施施設として選ばれます。

その要件とは、左記のようなものです。

- 医療設備が十分に整っていること
 - 責任をもって治験を実施する医師、看護師、薬剤師等がそろっていること
 - 治験の内容を審査する委員会を利用できること
 - 緊急の場合には、ただちに必要な治療処置ができること
- 治験・臨床試験という言葉を書くとき、「人体実験」という言葉を思い出し、モルモットのように扱われるのではないかと考える方がみえるかもしれませんが、科学的根拠に基づいた試験内容か、倫理的観点から被験者の安全と権利が守られているかなどを実施前に治験審査委員会にて十分審査します。審査の結果、承認され病院長の許可を得ただけですが、実施されることになります。

※当院では、よりよい治療法の研究開発のため、治験や臨床研究、製造販売後調査等を実施しております。現在は、**潰瘍性大腸炎の患者さんに対する新薬の治験、大腸精密検査法や大腸がん治療法の研究等**を行っています。

詳しくは治験事務局までお問い合わせ下さい。